

サステナビリティ
レポート

2021

UDトラックス株式会社



UD TRUCKS



UDトラックの今

トラックメーカーとして、80年を超える歴史を刻んできたUDトラックス。
時代が求める革新的な製品やサービスの開発・提供を通じて、
トラック物流の現場を支え、豊かな社会の実現に取り組んでいます。

販売・サービスを展開する国と地域

60以上

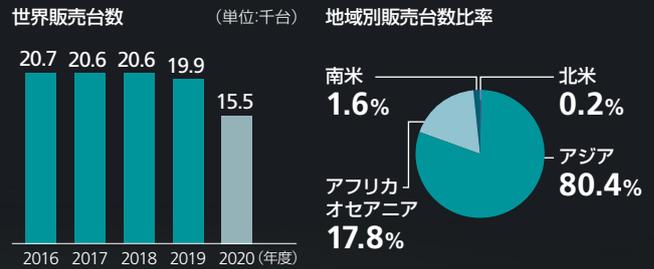
日本で、世界で、広範なネットワークを通じたきめ細かなサービスを展開。国内では約6万台のトラックがテレマティクスでつながるなど、お客さまのビジネスを24時間365日サポートしています。



2020年度の世界販売台数

15,458台

日本を中心に、アジア、アフリカ、オセアニアなどでUDトラックスの車両を販売。それぞれの市場のインフラや貨物特性に応じた物流ニーズに幅広く対応しています。



社歴

86年

1935年、ディーゼルエンジンの製造を目的に創立。社会のニーズに応え、新たな高みにチャレンジし続ける姿勢はUDトラックスのDNAとなっています。

国内サービスネットワーク

165カ所

(独立資本販売会社を含む)

UD純正部品と純正整備により、お客さまの車両をベストなコンディションに保ち、稼働率の向上を実現しています。

従業員数

6,127名

(日本国内、契約社員等および派遣社員を含む。2020年12月末日現在)

人材の多様性を高め、個人が最大限に能力を発揮できる環境が企業の持続性につながるという方針のもと、日本人だけでなくヨーロッパやアジア、アメリカ、アフリカなど29カ国籍の従業員が働いています。



左から、小型トラック「カセット」、中型トラック「コンドル」、大型トラック「クオン」、新興国向け大型トラック「クエスター」、中型トラック「クローナー」、小型トラック「クーザー」

4つの領域の活動を進化させ、 人と地球に「Better Life」を提供する。

社会生活のさまざまな局面でコロナ禍の影響が続くなか、国際社会は経済活動の維持・発展に向けて力強く前進しています。UDTトラックスが製品を提供する物流業界も、持続的な経済活動の基盤を支える存在としてますますその機能と役割を拡大させています。一方で、エネルギー資源の枯渇や気候変動、人々の生活格差に代表される社会課題は深刻さを増しており、SDGsで掲げられている各目標の達成に向けて、国際社会全体での取り組みが求められています。

こうしたなか、UDTトラックスは、事業活動を通じて社会課題の解決に貢献し、ステークホルダーの皆さまとともに成長していくために、「Better Life」という考え方を自社のパーパス(存在意義)として定義すると同時に、「日本の商用車メーカーでサステナビリティリーダーになる」という目標を掲げています。また、2021年には、この目標の実現をめざして4つの活動領域——「顧客満足度の向上」「地球温暖化防止」「働きがいのある職場づくり・地域貢献」「企業としての持続的な成長」を明確化しました。あわせて、環境、社会、ガバナンスの3つのグループで構成する「サステナビリティ委員会」を役員会のもとに設置し、各領域における施策の進捗を経営層が

定期的にレビューすることで、それぞれの着実な進化を図っています。

当社は、ボルボ・グループといすゞ自動車株式会社が商用車分野において戦略的提携を行ったことに伴い、2021年4月、いすゞグループの一員となりました。いすゞグループ各社とはすでにあらゆる面で協働の取り組みを推進しており、私たちがめざす「Better Life」の実現にも大きなメリットをもたらすものと期待しています。今後も人と地球のために歩みを進めるUDTトラックスへのご支援をよろしくお願い申し上げます。

代表取締役社長

酒巻 孝光



編集方針

UDTトラックスは、社会課題の解決に貢献する価値創造や、環境、社会、ガバナンスの取り組みをステークホルダーの皆さまにご理解いただくために本レポートを発行しています。2021年度版のレポートでは、当社のパーパスを全体構成の基軸に置き、事業の成長と社会への貢献の両立に向けた具体的な取り組みを紹介しています。

報告対象範囲

UDTトラックス株式会社
一部項目は、UDTトラックスブランドとして海外で展開している活動も報告

報告対象期間

2020年度(2020年1月1日~2020年12月31日)
一部、それ以前の経緯やデータ、2021年度の活動、将来の活動予定も報告

発行年月

2021年12月

目次

UDTトラックスの今	1
トップメッセージ	2
私たちのパーパス	3
サステナビリティ活動報告	
●よりスマートな物流のために	6
●よりクリーンな地球のために	17
●より良い職場・地域のために	28
●企業のより持続可能な成長のために	36
UDTトラックスについて	43

パーパス
Better Life

時代が求めるトラックとサービス提供する企業として
UDトラックスは持続可能な物流ソリューションを通じて人や地球によりよい暮らし「Better Life」を提供します

2025年になりたい姿
日本の商用車メーカーでサステナビリティリーダーになる

「サステナビリティリーダー」になるための4つの柱

よりスマートな物流のために
～顧客満足度の向上

よりクリーンな地球のために
～地球温暖化防止に向けて

より良い職場・地域のために
～働きがいのある職場・地域貢献

企業の
より持続可能な成長のために

私たちUDトラックスは商用車メーカーとして、80年以上にわたり物流業界と共に歩んできました。
今、世界的な気候変動や新型コロナウイルスの影響で、社会のあり方や人々の価値観が大きく変化しています。日本のトラック物流も、電子商取引の拡大や少子高齢化を背景とした人手不足の深刻化など、かつてない厳しい状況に直面しています。
目まぐるしく変化する時代において、UDトラックスがこれからもステークホルダーの皆さまと共に成長していくためには、社会から必要とされる存在であり続けることが重要です。こうした認識のもとに、私たちは、UDトラックスのパーパス(存在意義)を「Better Life」という言葉で表現しました。
「Better Life」は、私たちの事業活動すべての指針であると共に、すべてのステークホルダーに貢献していくという約束です。UDトラックスは、このパーパスを念頭に、2025年には、持続可能な事業と社会を両立する企業——「日本の商用車メーカーでサステナビリティリーダーになる」ことをめざします。

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

UDトラックスは、「Better Life」の取り組みを通じて、国連サミットで採択された「持続可能な開発目標(SDGs)」の実現に貢献します。

「サステナビリティリーダー」になるための4つの柱

よりスマートな物流のために～顧客満足度の向上

物流業界は今、交通安全の確保や交通渋滞・環境問題の解決に加え、物流需要の高まりと競争激化によるコスト減・効率向上に対するプレッシャー、規制強化、ドライバー不足などさまざまな課題に直面しています。

こうした課題に応えるために、UDトラックスはドライバーの運転環境の向上に寄与する商品や環境負荷を低減する商品を提供すると共に、デジタルを駆使して、車両の稼働を支援しています。さらに、ドライバーや物流会社と連携しながら物流のバリューチェーンを進化させ、将来の課題解決にも貢献するトータルソリューションを提供し、持続可能な物流を実現していきます。

そのために、UDトラックスは、コネクティビティ、エレクトロモビリティ、自動運転などの次世代技術を開発し、物流の効率化—スマートロジスティクス—の実現をめざしています。▶ [P6へ](#)



よりクリーンな地球のために～地球温暖化防止に向けて



気候変動をはじめとした地球環境問題は、世界にとって今や喫緊の課題となっています。物流の根幹を担う企業として、UDトラックスはこうした課題に真正面から向き合い、未来に向けた解を提案すべく行動を開始しています。

UDトラックスは事業活動のすべてにおいて、脱炭素化、廃棄物ゼロをめざします。再生可能エネルギーを積極的に活用すると共に、自社の商品や事業活動だけでなくサプライヤーとの連携を通じてCO₂排出量の削減を推進し、バリューチェーン全体での環境負荷の低減に取り組みます。また、3R (Reduction, Reuse, Recycle) の考えをもとにした施策を導入し、廃棄物を削減します。▶ [P17へ](#)



より良い職場・地域のために～働きがいのある職場・地域貢献

持続可能な物流・社会を実現するためには、私たちUDトラックスの従業員一人ひとりが心身ともに健康な状態で日々の業務を遂行し、お客様や地域社会に貢献すること、自ら成長しながら会社の成長に貢献することを喜びとする企業文化が必要です。

そのためUDトラックスでは、従業員の多様性を尊重すると共に、従業員との対話、教育機会を通じて個々の能力を最大限に発揮できる職場づくりに注力しています。また、ワークライフバランスに配慮したリモート勤務を拡充するなどして従業員の安全・健康の確保に尽力しています。

さらに、国内外の事業所では当社ならではの知見を活かして、地域の人々と共に交通安全教育、災害支援などに関わる取り組みを推進しています。▶ [P28へ](#)



企業のより持続可能な成長のために



どんなに好ましい社会的インパクトをもたらす企業であっても、企業そのものが持続可能に成長していかなくは意味がありません。

UDトラックスは、「スマートロジスティクス」「環境」「人材・職場／地域社会」のサステナビリティへの取り組みを核に、業務効率や生産性の向上、デジタル化を通じたビジネストランスフォーメーション、コーポレートガバナンスの強化などを通じて持続的に成長することで、業界最高水準の業績をめざします。そして、得られた収益によって物流業界の価値創出に貢献すると共に、UDトラックスの成長のためにさまざまなステークホルダーの未来に再投資することで、事業の持続可能性をさらに高めていきます。▶ [P36へ](#)

ステークホルダーとの対話を通じて

なりたい姿の実現には、お客さまやビジネスパートナー、従業員をはじめ、すべてのステークホルダーとの密なコミュニケーションが不可欠です。UDトラックスは、さまざまな機会を通じて各ステークホルダーとの対話に努め、その声を経営や事業活動、ESG(環境・社会・ガバナンス)各側面の活動に反映しています。



よりスマートな物流のために ～顧客満足度の向上



UDトラックスはドライバーの運転環境の向上に寄与する商品や環境負荷を低減する商品を提供すると共に、デジタルを駆使して、車両の稼働を支援しています。さらに、ドライバーや物流会社と連携しながら物流のバリューチェーンを進化させ、将来の課題解決にも貢献するトータルソリューションを提供し、持続可能な物流を実現していきます。

そのために、UDトラックスは、コネクティビティ、エレクトロモビリティ、自動運転などの次世代技術を開発し、物流の効率化—スマートロジクス—の実現をめざしています。

ドライバーの運転環境の向上

「UDアクティブステアリング」機能の開発

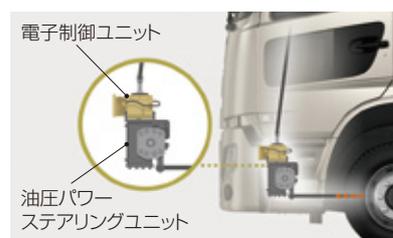


UDアクティブステアリングの操作性を紹介するために実施した世界最大級のトラック書道
[Web] <https://www.udtrucks.com/japan/trucks/new-quon/UDAS>

長時間労働や身体的な負担は深刻化するドライバー不足の主な要因の一つであり、物流業界にとって1日の大半をトラックのなかで過ごすドライバーの運転環境の改善が喫緊の課題となっています。

こうしたなか、UDトラックスは、ドライバーの疲労軽減と安全に寄与する「UDアクティブステアリング」機能を開発し、大型トラック「クオン」に搭載しています。UDアクティブステアリングは、従来の油圧式ステアリングギア上部に新たに搭載した電気モーターが、運転を支援する機能です。複数のセンサーが感知した運転環境に関する情報をもとに、電気モーターに付随する電子制御ユニット(ECU)が走行方向とドライバーの意図を判断して、あらゆる走行条件下で運転操作を積極的にサポートします。低速走行時には取り回しが軽く、速度が上がるにつれてステアリングの安定感が向上します。また、積み荷や路面状況、横風などにも左右されない安定したステアリングを実現します。

UDトラックスは、こうした物流業界の課題に応える先進技術の開発に注力することで、人々の暮らしを支える物流システムの維持・発展に貢献しています。



UDアクティブステアリングの5つの特長

- 低速走行時の軽いステアリング

重量物輸送時でも軽い力で操舵でき、疲労を大きく軽減。

- 高速走行時の直進安定性

スピードに応じてステアリングを適度な重さになるよう制御することで、直進走行時にドライバーの緊張感を軽減。

- 不整路走行時の路面状況の影響軽減

路面の凹凸から受ける影響を自動補正し、振動や意図しないステアリングの動きを軽減。

- 横風発生時の走行補正

横風の影響によるタイヤの微細な動きを素早く感知し、自動補正で直進走行をサポート。

- 後退・右左折時の自然なハンドル戻り

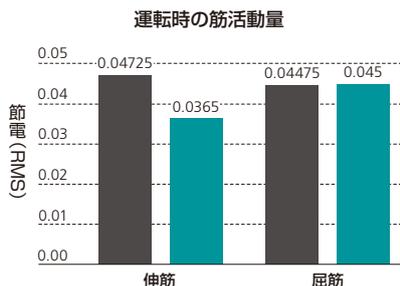
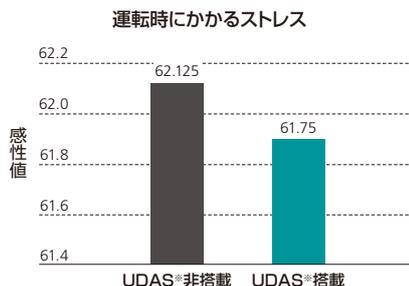
後退時や交差点での旋回時にステアリングを自動でニュートラル位置に復元。



実証実験で疲労軽減効果を確認

「UDアクティブステアリング」機能による疲労軽減効果を測定する実証実験を実施した結果、同機能の搭載車は、運転時のストレスが低く、過度な集中力を必要とせずに操作できることを確認。また、腕の力をより楽に操作でき、とくに駐車時や凹凸が激しい道路を走行する場合は、筋力を使わずにハンドル操作ができることもわかりました。

[Web] 実験結果の詳細
<https://www.udtrucks.com/japan/news-and-stories/press-releases/20210701-ud-active-steering>



※UDAS:UDアクティブステアリング

UDアクティブステアリング開発担当者の声

多くのドライバーの皆さまに安心して運転できる環境を提供したい。

UDアクティブステアリングの開発にあたって最初に論議したのは、ドライバーが大型トラックに求めるステアリングの感覚や性能はどのようなものかという点です。多くのお客さまのご意見やさまざまな調査から、とくに経験の浅いドライバーの方は「もっと楽に乗用車と同じ感覚で大型トラックを運転したい」という傾向が強いことがわかりました。これは「クオン」をはじめ、近年の大型トラックの運転性が飛躍的に向上した影響によるものと受け止めています。運転に由来する疲労や不安を軽減し、常に安心して運転できる環境を提供することは、乗務経験の浅い若年層に限らず女性やシニアなど多くのドライバーの皆さまに歓迎されると思います。今後も大型トラックを取り巻く市場や時代の変化を敏感にキャッチして、次世代を見据えた車両の開発に全力を注いでいきます。

UDアクティブステアリングは大型トラックのイメージを180度変える技術。

以前は、大型トラックの特性に合わせて、思いどおりに乗りこなしてこそプロドライバーという感覚がありました。それはプロとしての誇りだと思いますが、車両の進化に伴って、ドライバーのニーズは多様化・高度化しています。乗用車と同じような運転感覚を求める声に応えるために、UDアクティブステアリングには、低速走行時はステアリング感覚を軽くする一方、高速では重く安定するように自動的に制御する機能をもたせました。さらに、ステアリングの遊びを低減することで、乗用車の感覚に近いものとしています。UDアクティブステアリングは、従来の大型トラックのイメージを180度変えるといっても過言ではないと思います。私たち車両開発チームがめざしたのは、大型トラックのあらゆる使用状況に応じた運転の全体最適化であり、UDアクティブステアリングの開発によって、初心者の方でも抵抗感なく運転できる大型トラックに大きく近づいたと考えています。

安全・安心・快適な大型トラックの開発でドライバー不足の解決に貢献する。

UDアクティブステアリングは、車速に合わせてステアリングの重さを変えるだけでなく、ドライバーの運転の特徴を読み取って操舵性を最適に制御します。さらに、ドライバーが意識的にハンドルを操作しない時は、車両を真っすぐに保つ補正機能も備えています。不整路やわだちのある道で修正操作を行うと、ドライバーは無意識のうちに疲労を体に抱え込み、眼精疲労や肩こりが生じることがよくありますが、この補正機能によって心身への負担を軽減することができます。安全・安心・快適をサポートする大型トラックの開発は、ドライバー確保の間口を広げ、人材不足の解決にも貢献すると信じています。これからの輸送社会の実現に向けて、UDアクティブステアリングは大きなインパクトになると思っています。



開発部門 車両評価部
ディレクター
越川 英幸



開発部門 車両評価部
運転特性評価担当
永田 和則



開発部門 車両開発・車両設計部
エンジニア
高際 琢弥

トラック隊列走行プロジェクトへの参画

一般社団法人日本自動車工業会は、大型車メーカー4社で構成する大型車特別委員会の活動を通じ、物流の効率化やドライバー不足への対応、ドライバーの働き方改革などをめざして、トラックの隊列走行の取り組みを官民一体となって進めています。隊列走行とは、技術総称ではなく走行形態の一つです。大型車メーカー4社は、実用段階において「異なる物流事業者間」で「異なるメーカー」の「異なる仕様の車両」を使い隊列を組んで走行できるよう協調技術の開発を進めてきました。異なるメーカーの車両と隊列を組んで安心・安全な運行を行うには、前走車に合わせて後続車が違和感なく加速・制動できることが必要です。

UDトラックも同工業会のメンバーとして他の大型車メーカーとともに、2017年度から政府による高速道路でのトラック隊列走行の実証事業に参画。技術開発と必要な協調技術の確立に取り組んでおり、実証実験で得られた知見をもとに、後続車有人隊列走行システムの商品化も進めています。また、政府に対しても、ドライバー不足をはじめとする社会課題への対応のあり方や、自動運転技術、安全確保のためのインフラ整備など、さまざまな提言を行っています。



環境負荷低減

エンジンのダウンサイジングによる環境負荷の低減



UDトラックスは、2019年1月、大型トラック「クオン」のラインアップに、8リッターエンジン（GH8）搭載のカーゴ、ダンプ、ミキサー車を、また、2020年12月にはタンクローリー車を追加しました。従来の11リッターに比べ軽量でコンパクトなエンジンを採用したことで、積載量の大幅な増加を可能にするとともに、燃料消費と排出ガスの削減を実現。また、平成28年排出ガス規制適合、全車重量車燃費基準+5%を達成しています。

多様なニーズに対応する豊富な車両バリエーションにより、お客さまのビジネスに貢献しています。

8リッターエンジン搭載「クオン」の主な特長

- 充実の積載量

11リッターエンジン搭載車との比較でシャーシの重量を約300kg軽量化。

- 生産性と快適な走りの両立

8リッターエンジンと電子制御式オートマチックトランスミッション「ESCOT-VI（エスコット・シックス）」の搭載により、積載能力を支える十分な馬力とトルクで、スムーズでストレスの少ない快適な走りを提供。

- 先進の安全性

長い下り坂や悪条件下でも安定した制動力を発揮するディスクブレーキを採用。また、トラフィックアイブレーキ（衝突被害軽減ブレーキ）、ドライバーアラートサポート（ぶらつき注意喚起装置）を装備。

稼働率の向上

車両テレマティクスデータの活用による車両停止時間の短縮

日本の物流において、トラックによる輸送はトンベースで90%以上を占めています。お客さまのトラックのコンディションをより良い状態に保ち、安定した稼働を支えることは、トラックメーカーとして、お客さまへの責任であると同時に社会への責任でもあります。

こうしたなか、UDトラックスは独自のテレマティクス「UDインフォメーションサービス(UDIS)」でお客さまの安定稼働をサポートしています。これは、車両に搭載している多目的ディスプレイを通じてエンジンなど車両のコンディションや、燃費、位置情報を自動的に発信。その情報をUDトラックスがリアルタイムで集約・分析して、「遠隔車両診断」による「安心稼働サポート」として提供しています。万一のトラブル発生時にもいち早く車両の状態を把握して最寄のディーラーへ案内すると同時に、車両がディーラーに入庫する前に必要な部品手配を完了できるため、車両停止時間を大幅に短縮します。また、「省燃費レポート」により省燃費運転も支援しています。



UDロードサポートによる迅速な対応

UDロードサポートは、UDトラックスが運営するコールセンターです。専任のコーディネーターが窓口となり、24時間365日、ドライバーからのお問い合わせに直接対応しています。走行中の車両に不具合や故障が発生した際には、UDISを介して即時に送信される情報をもとに「遠隔車両診断」を実施。メカニックと共有することで、トラブルの解決までワンストップでお客さまを効率的にサポートしています。

また、出張修理が必要な場合は、最寄のディーラーからメカニックがスピーディーに駆けつけて復旧にあたります。ドライバーに安心していただけるよう、メカニックの到着予定時刻など必要な情報を随時連絡するとともに、ドライバーのもとへメカニックを派遣し、予期せぬ車両トラブルに迅速に対応しています。



除雪車の安定稼働のサポートを通じて持続可能な地域社会の実現に貢献

積雪寒冷地域では冬場の暮らしや物流などの社会機能を維持するうえで除雪が重要です。UDトラックスは、国内唯一の総輪駆動除雪車メーカーとして、除雪車両の開発や、その安定稼働を支える整備サービスの提供に注力。各地で人々の暮らしやインフラの維持に貢献しています。

例えば国内線・国際線合わせて1日平均約40便の航空機が離発着する青森空港では、積雪が3cm以上になると空港除雪隊「ホワイトインパルス」が出動し、UDトラックスの除雪車37台を使って滑走路などの除雪作業を約40分で完了します。多い年は累計降雪量が10mを超える厳しい環境にあつて「除雪による欠航ゼロ」を続けており、この地域における人流と物流を支えています。

UDトラックス青森カスタマーセンター
センター長 高橋 政夫

除雪車は寒さが厳しくなればなるほど、稼働が増える車両です。そんな除雪車の整備では、寒さ対策と除雪装置の作動チェックがオフシーズンの点検で最も重要です。外気温と車内の温度差によって除雪車のフロントガラスが曇り、操作に支障が出る場合もありますので、定期点検では、ヒーターなどの効き具合を入念にチェックしています。ホワイトインパルスから故障の一報が入れば、大雪や夜間にかかわらず出動します。部品が青森カスタマーセンターにない場合は、弘前や八戸など近隣拠点から入手し、限られた時間のなかで修理して、除雪隊の次の出動に備えています。今後も除雪車の稼働をサポートすることで、持続可能な地域社会の実現に貢献できればと思っています。

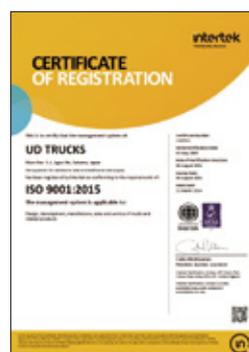
[Web](https://www.youtube.com/watch?v=KR9MEoOY9w) 豪雪地帯の物流を支える除雪トラック(動画)
<https://www.youtube.com/watch?v=KR9MEoOY9w>



品質

ISO9001 認証の取得

UDトラックスでは、品質マネジメントシステムの国際規格であるISO9001を導入しています。生産部門では2002年度に、開発部門では2016年度にISO9001を取得しました。PDCAのサイクルを回していくことで、継続的な品質の向上につなげていきます。



品質問題発生時の迅速な対応

品質問題の発生時にお客さまへの影響を最小限にするために、開発、生産、アフターマーケットの部門から構成される「クオリティ・アクション・グループ」を設置しています。同グループには、本社で対策を講じるチーム、ディーラー拠点やお客さまにも出向く技術専門チーム、支社に常駐して現地で直接対応にあたるチームを設けており、各チームが機能的に連携することで、問題の特定から対策の実行までを迅速かつ正確に行っています。

こうした部門横断の取り組みによって、関係者全員で品質情報をタイムリーに共有するとともに、スムーズな対応につなげ、お客さま満足度の向上に努めています。

製品開発での取り組み

開発部門では、UDトラックス独自の品質評価基準を設けています。開発段階ごとにチェックポイントを設定し、性能、機能、耐久信頼性など各品質項目の目標達成状況を確認しています。このプロセスの構築により、品質の向上と同時に開発期間の短縮も実現しています。

また、品質管理においては効率的かつ迅速な情報収集がますます重要になっていることから、不具合が発生した車両の整備や修理などの情報収集にウェアラブルカメラなどのデジタルツールを活用しています。さらにBIツールの導入により分析のプロセスのデジタル化を進め、より効率的に品質問題の兆候を把握できるようにしています。

生産での取り組み

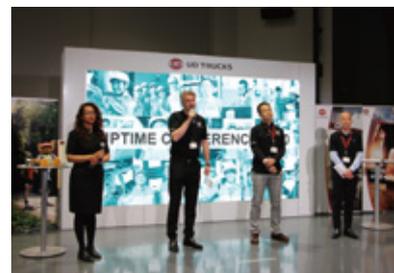
生産部門では、UDトラックス独自の管理手法に従って部品のデリバリーや生産過程での製造・品質不具合を日々確認しながら、目標とする品質レベルを維持しています。より一層の改善を求めたこの品質管理手法は、国内外を問わずすべてのUDトラックスの工場で採用されています。

近年は、従来、人が巡回して行っていた設備の検査にデジタルツールを導入しています。デジタルツールでリアルタイムにモニタリングし、事前に故障や不具合の発生リスクを評価・分析。必要に応じて予防的に修理・整備を実施しています。また、こうした予防的な品質管理の一環として、使用する部品のトレーサビリティ（製造方法や輸送方法など）も強化しています。

アフターサービスでの取り組み

整備スタッフのスキルアップを柱にサービス品質の確保・向上に努めています。2020年度は、新型コロナウイルス感染症の影響により、技能向上イベントなどを例年の規模で実施できませんでしたが、オンライン会議システムなどを活用して取り組みを継続しました。

例えば、最新の製品品質と技術サポート案件をアフターサービスに関わるスタッフで共有するために2013年度から毎年開催している「アップタイム・カンファレンス」を、全国のディーラー拠点と本社をつなぎ初めてオンラインで開催しました。アフターサービスの最前線で働くスタッフだけでなく、本社から開発部門、生産部門、調達部門、物流部門のメンバーも参加し、さまざまな角度から情報の共有と意見交換を行いました。



リコール&キャンペーン

お客さまの安全や環境に影響を及ぼす不具合が発生した場合には、国土交通省のガイドラインに基づき、速やかに情報を開示しています。

届出件数(各年1~12月)

	2018年		2019年		2020年	
	UDトラックス	ボルボ・トラック	UDトラックス	ボルボ・トラック	UDトラックス	ボルボ・トラック
リコール	9件	1件	10件	5件	8件	1件
改善対策	1件	0件	0件	0件	0件	0件
サービスキャンペーン	7件	3件	3件	2件	0件	1件

お客さまサポート

オンライン試乗会

UDトラックスでは、お客さまに車両の特長などを直接触れて確認していただく機会として、全国の国際サーキットを活用して試乗会を開催してきました。2020年度はコロナ禍のため、11月に商用車メーカー初の試みとなるオンライン試乗会を実施しました。

実施にあたっては、大型トラック「クオン」のキャブ内に複数のカメラを設置し、運転手の動きを詳細に捉えた映像や、上空から撮影した走行の様子がわかる映像を用意。開発責任者による説明や衝突被害軽減ブレーキの作動シーンなどのライブ映像と組み合わせることで、オンラインであってもリアルに試乗するのと同じような体験をしていただけるよう工夫しました。1回90分ほどのライブストリーミングを3回実施し、合計約600名のお客さまに参加していただきました。



エコドライブ講習会／安全運転講習会

2007年度からトラックドライバーを対象に「エコドライブ講習会」と「安全運転講習会」を開催しています。

「エコドライブ講習会」では、実際のトラックを使った運転操作や減速運転などの実技を通じて、省燃費運転につながる知識と技術の習得をめざしています。とくに、「UDインフォメーションサービス(UDIS)」を活用した講習会では、ギアチェンジや車速などの項目ごとに運転の評価ができるため、客観的に運転の癖を把握し、効果的な対策ができると好評をいただいています。2020年度は10回開催し、288名のお客さまに参加していただきました(2019年度:全国70カ所で実施、1,119名参加)。

また、「安全運転講習会」ではお客さまの要望に応じて、「運輸安全マネジメント」「飲酒運転の危険性」「トラックの死角」「事件事例と防止策」「危険回避」「ヒューマンエラー」などのなかからテーマを選定し、学んだ知識をすぐ実践できるよう、座学と実技を組み合わせたプログラムを提供しています。実際の事故車両に取り付けられていたドライブレコーダーで撮影された映像を使って事故を疑似体験していただくなど、お客さまが事故を自分自身のこととして捉えられるよう工夫しています。2020年度は46回実施し、2,053名のお客さまに参加していただきました(2019年度:146回実施、4,261名参加)。

なお2020年度は、グループ討議や集団演習を控えたり、オンラインによる遠隔講習会形式を取り入れたりするなど、新型コロナウイルス感染防止策を講じながら実施しました。

お客さま相談室

お客さまからのお問い合わせやご意見、ご要望にフリーコールで対応する「お客様相談室」を設置しています。想定されるお問い合わせごとにマニュアルを整備し、スムーズな対応に努めています。また、迅速かつ適切に対応するために、社内フローなどを適宜見直ししています。2020年度の総受付件数は3,917件でした(2019年度:4,004件)。

独立系販売会社とのパートナーシップ

研修などを通じたスタッフへのサポート

UDトラックスは、自社直系ディーラーのほかに、独立系ディーラー6社32拠点と連携して製品やサービスをお客さまに提供しています。各社の地域に根ざした事業活動を尊重しながら、お客さま満足度の向上を共通の目標として、直系ディーラーと同じ研修やイベントを開催し、より高い技術や最新知識の習得を支援しています。

アフターサービスに関わるスタッフを対象とした研修会「アップタイム・カンファレンス2020」(P15参照)には独立系ディーラーからも47名が参加し、サービスについての最新情報や知識を共有しました。

よりクリーンな地球のために ～地球温暖化防止に向けて



UDトラックスは事業活動のすべてにおいて、脱炭素化、廃棄物ゼロをめざします。

再生可能エネルギーを積極的に活用すると共に、自社の商品や事業活動だけでなくサプライヤーとの連携を通じてCO₂排出量の削減を推進し、バリューチェーン全体での環境負荷の低減に取り組みます。また、3R (Reduction、Reuse、Recycle) の考えをもとにした施策を導入し、廃棄物を削減します。

脱炭素化

事業活動に伴うCO₂排出量の削減

UDトラックスは、事業活動全体を通じてCO₂の排出削減に取り組んできました。とくにエネルギー使用量の大きい生産工場においては、2011年に当時の親会社であったボルボ・グループがWWF(世界自然保護基金)の「クライメート・セイバーズ・プログラム^{*}」に自動車メーカーとして初めて参加し、グループの生産工場から排出するCO₂量の削減目標を掲げたことを受け、UDトラックスもこの目標達成に向け、具体的な活動項目やアクションプランを検討・実施してきました。「2013年度のCO₂排出量については1990年度比39%の削減」という目標を掲げ、その成果として目標を大きく上回る61.3%の削減に成功。その後も省エネ・CO₂削減を進め、2020年度は目標の2013年度比8%削減に対して61.8%削減しました。なお、これらには生産拠点の統廃合や生産工程の見直しといった生産全体の効率化による削減分も含んでいます。

今後は、2050年までにカーボンニュートラルの実現をめざす日本政府の方針に沿って、生産工場だけでなく全事業活動においてCO₂排出削減を加速させていきます。

^{*}WWFと企業のパートナーシップで温室効果ガス削減を進めるプログラム。

グリーン電力の購入

2013年度以降、上尾工場以外の一部施設において再生可能エネルギー由来の電力を購入していましたが、2019年5月からは上尾工場でも購入を開始しました。2020年度はコジェネレーション設備(発電機)を停止して、再生可能エネルギー由来の電力をより積極的に活用することとしたため、購入量は前年度から57%増加し、通常電力を購入した場合と比べ年間1,215トンのCO₂を削減しました。

工場照明のLED化

上尾工場では、2017年度より寿命を迎えた照明器具から順次LED化を進めています。2020年度は約7,000灯をLED化しました。同時に配列の見直しにより、蛍光灯など旧来の照明器具約1,400灯を撤去しました。これにより、2019年度比169トン(0.7%)のCO₂を削減しました。



ボイラーの更新

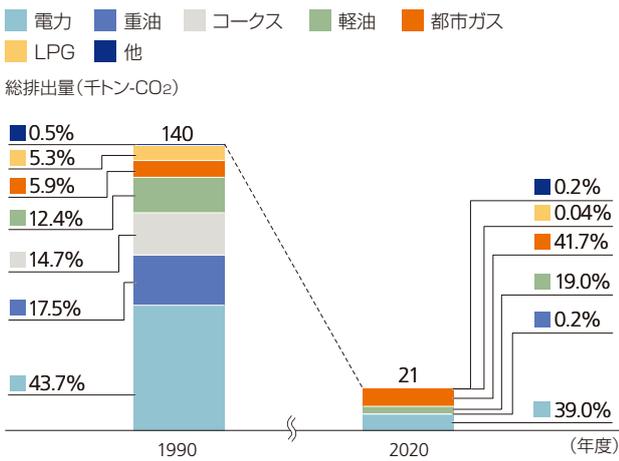
2020年末に老朽化したボイラー3基を高効率ボイラーに交換しました。2021年度の省エネルギーに寄与します。



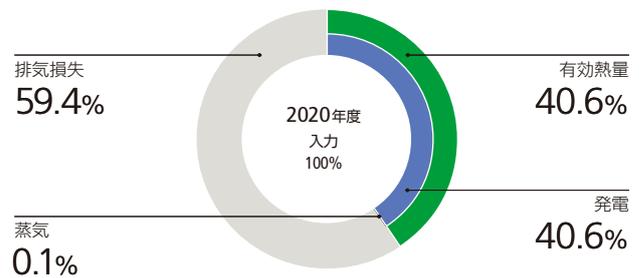
CO₂総排出量



エネルギー別CO₂排出量



大型天然ガスコジェネレーションの熱収支



製品ライフサイクルでのCO₂排出量の削減



UDトラックは、開発・設計から廃棄・リサイクルまで製品ライフサイクルのすべての段階で環境負荷分析を行っています。製品ライフサイクルのなかで多くのCO₂を排出するのはお客さま先での使用段階であるため、その削減につながる燃費改善技術の開発に注力しています。

燃料消費を抑制する技術の開発

トラックの燃料消費は、運送事業者にとって経営上の大きな負担となるだけでなく、地球温暖化に及ぼす影響が最も大きいCO₂排出の主な要因ともなります。

そこで、UDトラックでは燃料消費の抑制を環境活動における最大の課題と位置づけ、長年にわたって着実に改善を図ってきました。国内では各メーカーが2015(平成27)年度に達成すべき「平成27年度重量車燃費基準」が施行され、車両重量などのカテゴリーごとに目標燃費値が設定されています。2020年度販売実績において、目標燃費を達成した車両台数は販売台数の98%を占め、平均燃費値においては2012年以降企業目標を達成しています。

また、車両の燃費改善とともに、トラックドライバーに省燃費運転につながる知識と技術の習得を支援する「エコドライブ講習会」(P16参照)を全国各地で継続的に実施しています。



燃費改善に貢献する「クオン」のドライブライン

燃費改善技術

エンジンやトランスミッションなど駆動系の性能向上や、走行状態のきめ細かな制御など、燃費を改善するさまざまな先進技術を積極的に搭載することにより、大型トラック「クオン」の主要車型の9割以上において「平成27年度重量車燃費基準」の目標値に対して105%以上を達成しました。また、国の次期燃費基準である「2025年度重量車燃費基準」への対応に向け、さらに燃費を改善するプロジェクトを進行させています。

大型トラック「クオン」に採用している主な技術

車両	<ul style="list-style-type: none"> ● 燃費コーチ(省燃費運転をガイド) ● フォアトラック(道路勾配を記憶し先読み制御) ● 空気抵抗の低減(エアダム一体型フロントバンパー、新デザインの導風板など)
エンジン	<ul style="list-style-type: none"> ● 燃料噴射システムの変更 ● 燃焼室(ピストン)の形状変更 ● 吸気系の形状変更 ● 可変速のウォーターポンプの採用 ● 小排気量エンジン(8L)の採用
駆動系	<ul style="list-style-type: none"> ● ESCOTロール(惰力走行時の速度低下制御) ● アクセラレーションリミッター(急激なアクセル操作の抑制) ● ソフトクルーズ(加速制御)

UDトラック燃費改善状況



※ 2015年基準値を100%とした場合の販売台数による加重調和平均。

廃棄物削減

廃棄物削減への取り組み

製品ライフサイクルで最も多く廃棄物が発生するのは、ディーラーでの製品廃棄時です。そのためUDトラックスでは廃棄物管理体制を構築し、2014年度から廃棄物分別管理に関する社内処理基準を全ディーラー拠点に導入しています。各拠点では、これに従って専用の設備を設置し、廃棄物を細かく分別しています。また、ディーラーへ発送するサービスパーツの梱包容器のリターナブル化を進め、各ディーラー拠点に再利用を促しています。

開発段階においては、3分割バンパーや、レンズとLEDユニットが単体交換可能な易解体性ヘッドランプ、リサイクル材使用フェンダーなど、解体のしやすさや資源の有効利用を考慮した設計を行っています。

生産段階では、廃棄物最終処分量の削減を目標に、廃棄物の発生抑制とリサイクルに取り組んでいます。2020年度においては、廃棄物最終処分量を1990年度比で99.9%削減。また、リサイクル率も99%以上を維持しています。

UDトラックスでは、こうした廃棄物管理体制の強化を目的に、2015年4月から廃棄物処理の専門会社とコンサルタント契約を締結しています。信頼性の高い処理会社の選定や行政への届出、帳票(マニフェスト)管理、処分量集計など、廃棄物管理に関わるコンプライアンスの徹底を図っています。

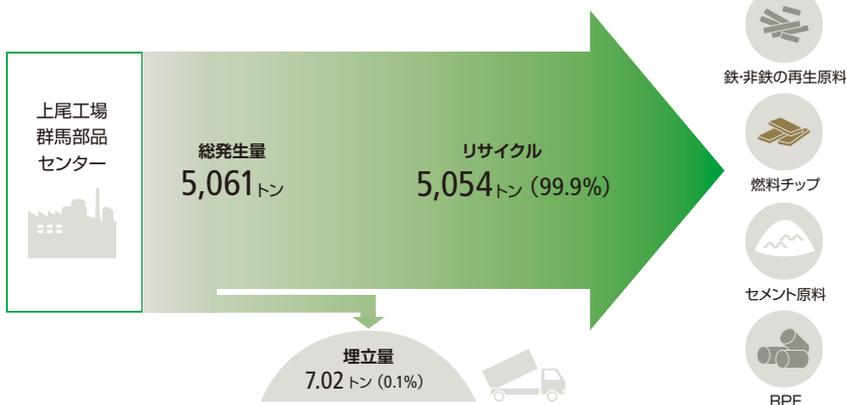
自動車リサイクル法に基づく取り組み

日本で2005年に施行された自動車リサイクル法(使用済自動車の再資源化等に関する法律)を遵守し、使用済み自動車から発生する指定3品目(自動車シュレッダーダスト(ASR)、エアバッグ類、フロン類)を回収して、適正にリサイクル処理しています。

[Web]

自動車リサイクル料金および再資源化の実績
<https://www.udtrucks.com/japan/about-ud-trucks/automobile-recycle-law>

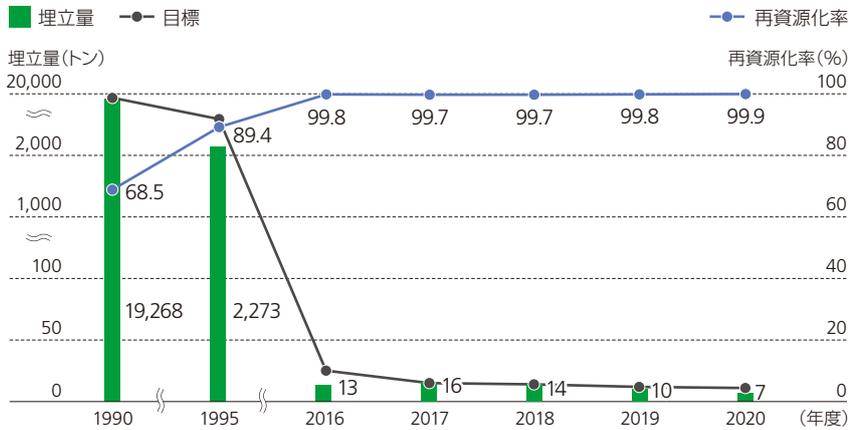
廃棄物処理状況(2020年度)



集計範囲

上尾工場と群馬部品センター(「廃棄物最終処分量(埋立量)／再資源化率」は2017年度まで他工場のデータを含む)

廃棄物最終処分量(埋立量)／再資源化率



※自工会廃棄物分科会の取り組みに準拠し、2004年度より目標値を見直しています。

水資源・大気保全

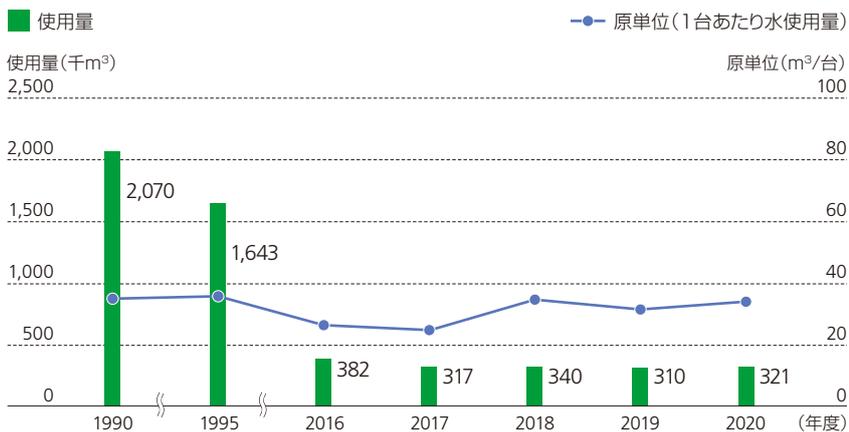
水使用量の削減と排水・排気の適正管理

UDトラックスは、水使用量の削減と、排水や排気の適正管理に継続的に取り組んでいます。

具体的には、設備の点検や清掃、漏水調査、漏水発見時の速やかな補修などによって水使用量の削減に努めています。また、ISO14001の地下水節水活動において全社の目標値を設定し、進捗管理を行っています。

排水・排気については、法規制値よりも厳しい独自の運用管理値を設定し、設備の清掃やメンテナンスを計画的かつ確実に実施することで、周辺水域と大気汚染防止を徹底しています。

水使用量



集計範囲

上尾工場と群馬部品センター(2017年度まで他工場のデータを含む)

環境測定データ(上尾工場)

水質	測定項目		単位	規制値	最大	最小	平均
	排水量		m ³ /日	—	9,430	0	2,127
	pH		—	5.8~8.6	7.8	7.0	7.4
	BOD(生物化学的酸素要求量)		mg/L	25 (20)	2.1	1.3	1.8
	COD(化学的酸素要求量)		mg/L	160 (120)	8.8	2.2	4.5
	SS(懸濁物質)		mg/L	60 (50)	<5	<5	<5
	N-Hex(鉱油)		mg/L	5	<2.5	<2.5	<2.5
	リン		mg/L	16 (8)	1.0	<0.1	0.3
	窒素		mg/L	120 (60)	3.1	1.1	1.8
	亜鉛		mg/L	2	0.1	<0.1	<0.1
	フッ素および化合物		mg/L	8	<0.8	<0.8	<0.8

大気	施設名	測定項目	単位	規制値	最大	最小	平均
	コジェネ(ガス機関)	NOx(窒素酸化物)	ppm	200	110	110	110
	乾燥炉1	NOx(窒素酸化物)	ppm	230	34	8	18
ばいじん		g/m ³ N	0.2	ND	ND	ND	

環境測定データ(群馬部品センター)

水質	測定項目		単位	規制値	最大	最小	平均
	排水量		m ³ /日	—	11.3	0	2.9
	pH		—	5.8~8.6	7.0	6.5	6.7
	BOD(生物化学的酸素要求量)		mg/L	20	7.5	1.1	3.6
	SS(懸濁物質)		mg/L	20	9.0	2.0	5.3
N-Hex(鉱油)		mg/L	1	<0.5	<0.5	<0.5	

大気	施設名	測定項目	単位	規制値	最大	最小	平均
	ボイラー重油 No.1、2、3	NOx(窒素酸化物)	ppm	180	65	62	63
	ばいじん	g/m ³ N	0.2	<0.001	<0.001	<0.001	

環境データ測定期間:2020年4月~2021年3月 ND: 定量下限以下 規制値の()内は日間平均

化学物質の管理

製品含有化学物質の管理

化学物質の製造・輸入・管理、環境配慮設計、リサイクルなどに関する法規制や産業界の自主基準の遵守を前提に、自動車業界の統一化学物質リスト(GADSL)に基づき、製品に含有される化学物質の管理に努めています。

化学物質管理の取り組み

開発・設計段階

- 各工程でサプライヤーを含めた化学物質の使用状況を確認
- 必要に応じてIMDS※¹へ情報を登録

生産段階

- PRTR制度※²に基づき毎年届出・報告を実施
- 社内基準として運用し有害物質代替活動を推進
- 法律の改正に対しても適切に対応

※¹ 世界各国の自動車メーカーが環境保全を目的に共同で運営している材料データベース。

※² 特定化学物質の環境への排出量の把握等および管理の改善の促進に関する法律。

化学物質【PRTRデータ】(上尾工場、2020年度)

単位:kg/年

政令番号	化学物質名	取扱量	排出量			移動量	除去処理量	リサイクル量	消費量(製品)
			大気	水域	土壌	廃棄物			
53	エチルベンゼン	14,326	5,779	0	0	0	1,817	6,692	0
80	キシレン	26,070	8,257	0	0	0	1,976	15,615	0
296	1,2,4-トリメチルベンゼン	1,661	938	0	0	0	444	0	0
297	1,3,5-トリメチルベンゼン	3,291	371	0	0	0	22	2,850	0
300	トルエン	6,251	4,715	0	0	0	1,098	102	0

PCB保管状況(2020年度)

	上尾工場
コンデンサ	0kg
安定器	25,285kg
トランス	0kg
汚染物(ウエスなど)	591kg
合計	25,876kg

※「トランス」は、トランス本体の筐体重量を含む。

※重量は一部推定を含む。

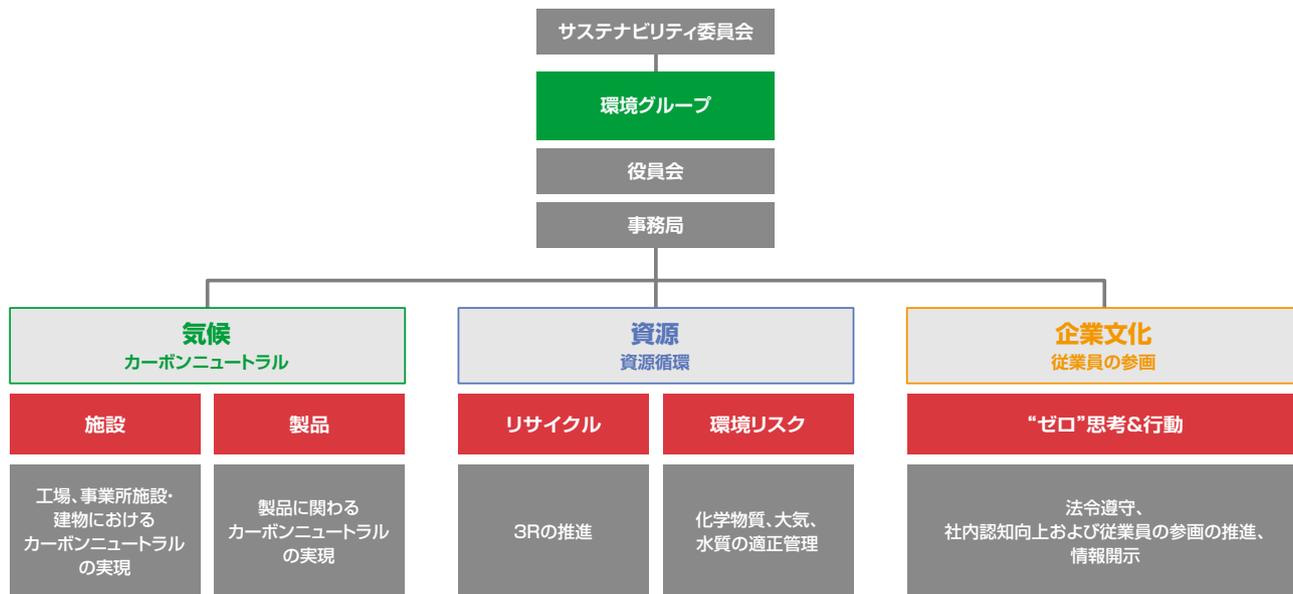
環境マネジメントシステム

環境方針

One UDとしての環境活動の推進は、物流ソリューションで社会の繁栄を推進し、「Better Life」に貢献するための私たちの使命の重要な役割です。次の原則に基づき環境対策の推進に取り組みます。

- 製品ライフサイクル全体での環境に対する影響を継続的に削減し、持続可能性とカスタマー・サクセスを実現します。
- 従業員一人ひとりが、事業を展開するすべての地域で、環境に配慮する責任を果たし、我々のコアバリューに基づいた行動により信頼を構築します。
- One UDとして、法規制や環境負荷に対する意識を高め、循環型経済の実現とともに企業価値向上の活動に取り組みます。

環境マネジメント体制



ISO 14001 認証の取得

UDトラックスは、ISO 14001の認証を取得しています。1998年度に上尾工場が取得後、2017年度までに各工場・関連会社において順次取得し、2018年8月末にはISO 14001:2015年改訂規格への移行を完了しました。

また海外でも、バンコク工場(タイ)およびプレトリア工場(南アフリカ)で取得しています。

現在は、全社で環境マネジメントシステムを運用することで、環境活動計画で定めた目的・目標の達成をめざしています。

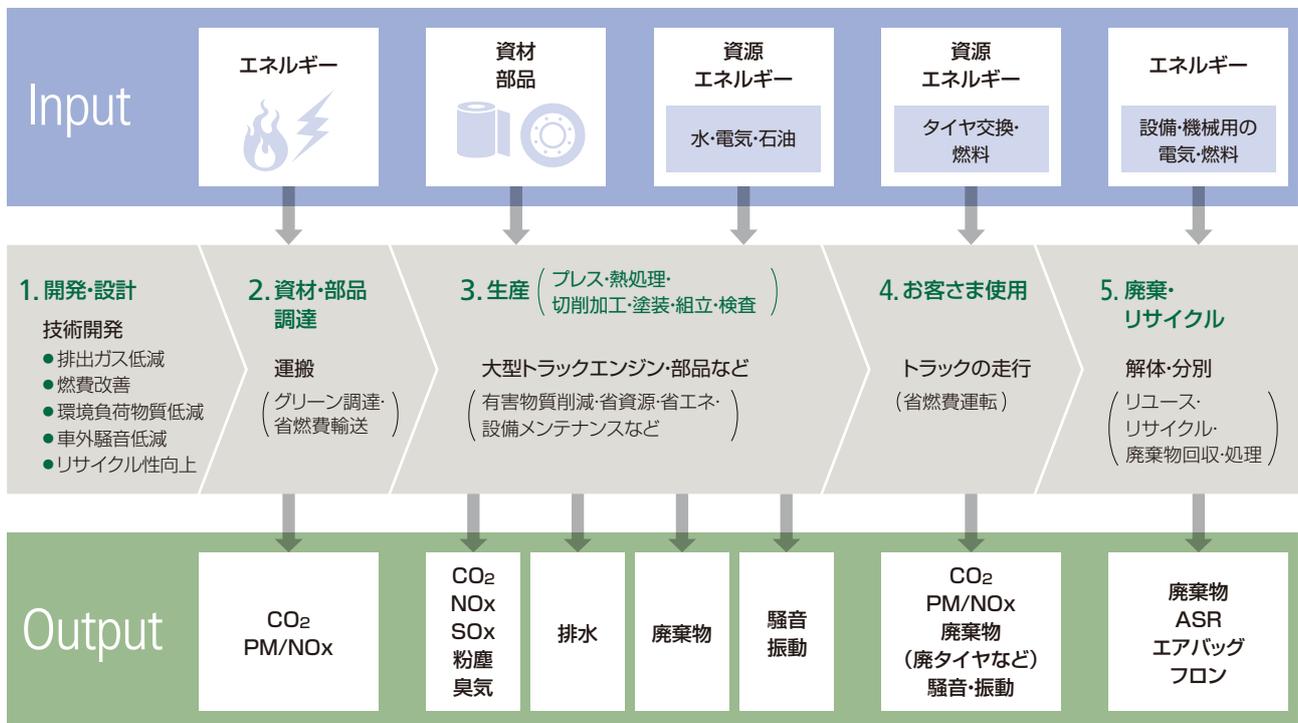


環境マネジメントシステムに対する内部監査／外部審査

環境マネジメントシステムが適切に機能していることをチェックするために、社内規定に基づく内部監査を毎年定期的に行っています。監査では、内部監査資格をもつ委員で構成する監査チームが、環境マネジメントシステムの運用状況、社内基準、環境関連法規制の遵守状況などを確認・評価しています。

また、外部機関による審査も毎年実施しています。

マテリアルフロー



トラックのライフサイクルでの環境負荷は、ほとんどが使用中に発生するCO₂と排出ガス(PM・NO_x)です。

より良い職場・地域のために ～働きがいのある職場・地域貢献



UDトラックスでは、従業員の多様性を尊重すると共に、従業員との対話、教育機会を通じて個々人の能力を最大限に発揮できる職場づくりに注力しています。また、ワークライフバランスに配慮したりリモート勤務を拡充するなどして従業員の安全・健康の確保に尽力しています。

さらに、国内外の事業所では当社ならではの知見を活かして、地域の人々と共に交通安全教育、災害支援などに関わる取り組みを推進しています。

多様性の尊重と個人が能力を最大限に発揮できる環境づくり

ダイバーシティ^{※1}&インクルージョン^{※2}の取り組み



ダイバーシティ&インクルージョンは会社の業績向上に不可欠であるという考えのもと、従業員のさまざまな違いを尊重しています。また、人材の多様性を高め、個人が最大限に能力を発揮できる環境を築くことで、持続的な成長をめざしています。

毎年、社内イベント「ダイバーシティ&インクルージョンウィーク」を開催し、ベストプラクティスの共有などを通じて、従業員の多様性に対する理解と互いを認め合う文化の醸成に取り組んでいます。埼玉県上尾市の本社で開催する集合セッションには、日本全国のディーラー拠点の女性従業員の参加を促しているほか、海外拠点の従業員もオンラインで視聴できるようにするなど、職種や地理的条件にかかわらずすべての従業員が参画可能な取り組みとしています。コロナ禍の2020年度は拠点ごとに実施しましたが、2021年度は、女性役員と従業員のバーチャルパネルディスカッションや、さまざまな国の代表者が自国の文化を紹介するライブセッションをオンラインにて国内外の全従業員に配信しました。

※1 性別、国籍、人種、年齢、性的指向、宗教、政治に対する信条、社会経済的地位、身体能力など、異なる背景や視点をもつ人々のこと。

※2 自身の存在を尊重され、評価されていると感じること。また、周囲からの支援と関与を感じること。

**アイデアや意見を自由に発言でき、
柔軟な働き方をサポートしてくれる環境が
やりがいにつながっています。**

中国出身で、日本の大学を卒業後、UDトラックスに入社しました。最初は生産部門でエンジニアとして働き、2018年11月から産休・育児休業を取得しました。職場復帰後は、社内公募制度を利用して戦略一部に異動しました。世界初の尿素SCRシステムの採用など人と環境に配慮したUDトラックスの製品づくりに共感して入社を決めました。当初は日本語でのコミュニケーションに自信がもてず、悩んだことがありました。しかし、丁寧に聞き取り、確認し、積極的に理解してくれる同僚に囲まれ、私のユニークなアイデアや意見を自由に発言できる環境も整っていて、一人ひとりの個性が大切にされ、ダイバーシティ&インクルージョンが本当に重視されていると実感しています。現在は、柔軟な働き方をサポートする人事制度のおかげで、育児と仕事の両立がうまくできています。



生産部門
戦略部開発マネージャー
付 雪薇

国内従業員データ(2020年12月31日現在)

● 従業員数(直接雇用)



● 管理職者数

男性
女性

1,039名
61名

● 新卒採用者数

210名

● キャリア採用者数

148名

(2020年1月1日～12月31日 までの採用者数)

● 国籍数 **29カ国**

アイルランド、アメリカ、イタリア、インド、インドネシア、ウクライナ、オーストラリア、カナダ、シンガポール、スイス、スウェーデン、スリランカ、タイ、ドイツ、ネパール、バングラデシュ、フィリピン、ブラジル、フランス、ベトナム、ベルギー、マレーシア、ミャンマー、モロッコ、モンゴル、韓国、中国、南アフリカ、日本

対話による成果・成長・信頼の醸成

UDトラックスでは、上司やチームメンバーとの継続的な対話を促進しています。業務の優先度や進捗確認、改善提案や能力開発などを話し合い、フィードバックを得ることを通じて、業務の成果だけでなく、個人の成長や同僚との信頼関係の構築にもつなげています。

また、社内コミュニケーションの円滑化にも取り組んでいます。対話集会や「フィーカ[※]」などの取り組みを継続するとともに、全従業員がいつでもどこでも必要な情報を閲覧・発信・共有できる大規模なデジタルプラットフォームを導入し、会社のPCのほか個人のPCやスマートフォン、タブレットでも業務システムなどにアクセスできるようにしています。この仕組みによって組織やプロジェクトチーム内での情報共有や意見交換も容易になり、国や階層を越えた従業員同士の交流が活性化しています。また、従業員が多様な情報に接することで、会社に対する理解が進み、業務改善に対する意識も向上しています。

※スウェーデンでティーブレイクを利用して行われるカジュアルな対話。

能力開発の支援

現在の業務だけでなく、将来重要となる知識や能力の開発・向上に継続的に取り組んでいます。幅広い研修プログラムや管理システムの導入、トレーニング施設の充実などを進めるとともに、従業員の積極的な学びや自己開発を支援しています。

2018年度からは、従業員が自ら学ぶ企業風土づくりをめざし、「ラーニングデー」という啓発イベントを開催しています。2020年度はさらに「キャリア」にも焦点を当て、将来のキャリア設計や、それを実現するための能力開発や学習計画に役立つ情報や手法などについてのセッションを行いました。



ラーニングデー(2019年開催時)

従業員の健康と安全

新型コロナウイルス感染防止対策

従業員の健康と安全は、UDトラックスの最優先事項の一つです。新型コロナウイルス感染症に対しても、発生以降、従業員の健康と安全を守るため、さまざまな対策を講じています。

感染防止対策として、健康観察、マスクの着用、手指消毒の励行、密閉・密集・密接の回避を徹底するために、「新しい行動様式ガイドライン」「新型コロナウイルス対策ガイドライン」を策定しました。これらに基づき、出社時の検温、オフィスや食堂におけるマスク着用の徹底、座席間隔の拡大、クリアパネルの設置、定期的なドアノブのアルコール消毒、会議室の人数制限などの対策を行っています。また、従来から実施している在宅勤務をさらに活用することで、従業員が安心して勤務できる環境を整えています。

あわせて、2021年7月からは本社で新型コロナワクチンの職域接種を実施し、本社と関東エリアに勤務する従業員のうち希望者2,200名が接種しました。新型コロナワクチン接種のサポートは日本だけでなく、南アフリカ、タイ、インド、中国などでも実施しています。



ストレスチェックテスト

メンタルヘルス不調の予防のために、従業員のストレスチェックテストを実施しています。結果によって、医師やカウンセラーとの面談を促しているほか、医師からの助言に基づき、業務内容の見直しなどを行っています。

フレキシブルな就労環境

従業員が仕事とプライベートを効率的に両立できるよう、各種制度やポリシーなどを整え、ワークライフバランスの充実に支援しています。

個別の働き方を支援する主な制度・ポリシーなど

- 育児休職制度
- 介護休職制度
- 取得制限を設けないテレワーク制度
- コアタイムを設けないフレックスタイム制度
- 職場での尊厳に関するポリシー（ハラスメント防止策）
- 定時退社促進活動

産休・育休・介護休職取得者数（2020年1月1日～12月31日）

	取得者数		取得後の状況など
	性別	人数	
産休取得者	女性	18名	終了後は全員が育休を取得
育休取得者	男性	4名	3名復帰、退職0名
	女性	25名	10名復帰、退職1名
介護休職取得者		0名	

小学校での英語ボランティア



2020年11月に、UDトラックスの本社がある埼玉県上尾市の大谷小学校で開催された「令和2年大谷ワールドカフェ」の授業に、当社の外国籍従業員9名が参加しました。この授業は、児童がこれまでに学んだ英語を実践すると同時に、さまざまな文化や考え方など社会の多様性について知る機会の提供を目的としたものです。

授業では、インド、スウェーデン、フランス出身の従業員がそれぞれブースをつくり、出身国の写真や伝統工芸品を持ち寄り児童に英語で紹介しました。なかにはこの日のために伝統的な衣装を身に着けて参加した従業員もいました。一方、児童はグループに分かれて各ブースを回りながら、日本の伝統文化を英語で説明しました。

最初は恥ずかしそうにしていた児童も徐々に打ち解け、インドの踊りを真似て踊ったり、一緒に紙飛行機をつくったり、逆にコマ回しを教えたりと時間が経つにつれ外国人と打ち解け交流を楽しんでいました。児童たちは「英語はうまく話せなくても、表情やジェスチャーで伝わるのがわかった」「インドの文化に興味深かった。将来、自分もインドに行ってみたいと思った」など、活動を通じて視野を広げていました。

社会のグローバル化が進むなか、上尾市は文部科学省の教育課程特例校の指定を受け、独自の取り組みを開始するなど英語教育に力を入れています。UDトラックスは、当社の特徴である人材の多様性を活かして、学校からの要請に今後も応えていく計画です。

小学生向け交通安全教室

埼玉県は、営業用トラックによる死亡事故件数が常にワースト上位に位置していません*。UDトラックスは、埼玉県に本拠を置くトラックメーカーの社会的責任の一つとして交通事故の防止に貢献することを目的に、2016年から上尾市の小学生を対象に交通安全教室を実施しています。

「体験」を重視したこのプログラムでは、大型トラックを使用して死角や内輪差を体験しながら、安全行動について学んでもらっています。また、プログラムの最後には大型トラックの運転席に座り、トラックドライバーから車外がどのように見えるかも確認します。

コロナ禍となった2020年は、1回あたりの参加児童数を減らし、検温やこまめな手指消毒など感染防止対策を講じて開催しました。引率の先生からは、「コロナ対策がしっかりとされていて安心できました」「子どもたちは、学校での行事がほとんど中止になっています。そのなかでの交通安全教室はとても勉強になるだけでなく、子どもたちが気持ちをリフレッシュできる行事だったと思います」「子どもたちもとても楽しむことができ、よく理解していました」などの感想をいただきました。この交通安全教室には2020年までの5年間で児童2,235名が参加し、のべ248名の従業員がスタッフとして運営に携わっています。

エンジン寄贈

自動車整備士の養成や研究に役立てていただくことを目的として、自動車整備専門学校・大学校や大学などに対して教材用エンジンを合わせて8基寄贈しました。

自動車の保守・整備に従事する自動車整備士は、物流の安定稼働に重要な役割を担っています。しかし、eコマースの拡大やコロナ禍による外出自粛を背景に輸送需要が急増する一方で、少子化や若者の車離れなどの影響から人材不足が深刻化しており、将来の物流を支える人材の育成が大きな課題の一つとなっています。UDトラックスは、従来からエンジンなどの物品寄贈だけでなく、自動車整備専門学校との産学連携授業も実施しており、今後も大型車への関心を高め、整備士の育成に役立つ取り組みを継続していきます。



*公益社団法人全日本トラック協会の統計データより。対象は、営業用トラックのうち軽自動車を除く。



新型コロナウイルス感染症への対応

日本

2020年5月に埼玉県上尾市の公立保育所にマスク5,000枚を寄贈しました。これに対して市長の畠山稔氏より、「小中学校は休校になっても、保育所は通常どおりお子さんたちを受け入れており、ウイルス蔓延を防ぐための職員の苦労は計り知れない。マスクの入手もまだまだ困難で、今回の寄贈は本当にありがたい」と、感謝の言葉をいただきました。

また6月には、本社近隣の上尾市立大谷小学校にもマスク5,000枚を寄贈し、学校再開後の感染予防に役立てていただきました。

南アフリカ

新型コロナウイルス感染症の流行により、南アフリカは深刻な経済・社会課題に直面しています。同国では人口の18%以上が貧困下で生活しており、新型コロナウイルス感染症の流行に加えて、貧困の拡大も深刻な課題となっています。

UDトラックスサザンアフリカでは、毎年ネルソン・マンデラデー※に絵画イベントや高齢者訪問を行っていましたが、2021年は貧困に直面しているコミュニティの支援に注力。2021年はネルソン・マンデラ氏の生誕103周年にあたることから、それと同数の食品小包をUDトラックスサザンアフリカのあるプレトリアとその周辺の主に黒人のコミュニティに寄付しました。

※国連が定めた国際デーの一つ。アパルトヘイトの撤廃に生涯をかけた故ネルソン・マンデラ氏の誕生日である7月18日に、他者に尽くすための時間をとることが呼び掛けられている。

タイ

UDトラックスタイランドは、コロナ禍で輸血用血液の確保に苦労している医療機関を支援するために、タイ東北部のコーンケンにあるUDトラックス販売店で献血デーを実施しました。献血デーは地元の病院と協力して行い、従業員やお客さま、ビジネスパートナーなど50名が参加しました。



UDトラックスの大型トラック「クエスター」をベースとした献血車。エアコンやリクライニングシート、医療機器が装備されている。

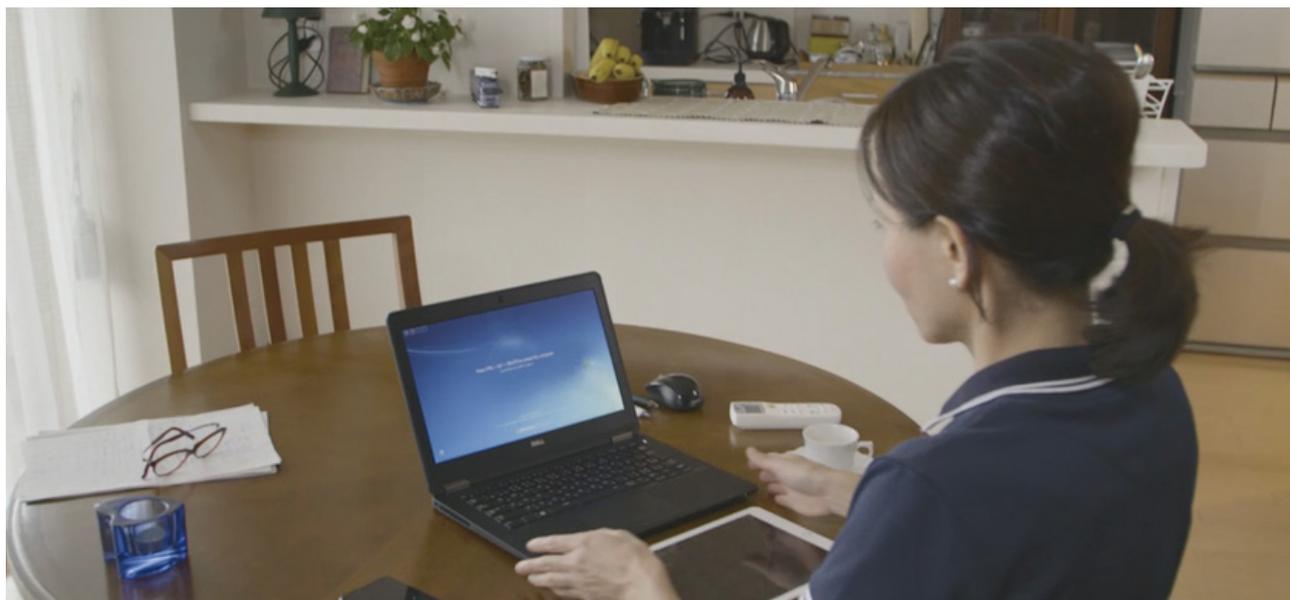
企業のより持続可能な成長のために



UDトラックスは、「スマートロジスティクス」「環境」「人材・職場／地域社会」のサステナビリティへの取り組みを核に、業務効率や生産性の向上、デジタル化を通じたビジネストランスフォーメーション、コーポレートガバナンスの強化などを通じて持続的に成長することで、業界最高水準の業績をめざします。そして、得られた収益によって物流業界の価値創出に貢献すると共に、UDトラックスの成長のためにさまざまなステークホルダーの未来に再投資することで、事業の持続可能性をさらに高めていきます。

デジタル化を通じたビジネストランスフォーメーション

事業活動全体でDXを推進



UDトラックスは、デジタルトランスフォーメーション(DX)はITの変革にとどまらず、業務変革(ビジネストランスフォーメーション)の一部であり、企業文化の変革をめざすものであると位置づけています。そして、物流の高度化や、業務効率や生産性の向上、より良い職場環境の実現には、データを基盤としたDXが不可欠であると考えています。

UDトラックスでは、先進的なITツールを導入するとともに、ビッグデータの蓄積と活用に注力しています。生産計画や品質管理から販売社員の商談の進捗状況に至るまで、多岐にわたる情報を一元的に整理・分析し、経営に反映しています。また、それらのデータを従業員にも公開することで、ビジネスに関わるアイデアの創出や、経営層と従業員のコミュニケーションの活性化にもつながっています。

同時にDXの推進によってリモートワーク体制を整備することで、世界各地からの人材獲得が可能になり、人材の多様性や社員の能力向上の面でも成果が生まれています。

コーポレートガバンスの強化

経営・業務執行体制



代表取締役会長
袴田 直人



代表取締役社長
生産部門シニアバイスプレジデント
(兼任)
酒巻 孝光



取締役
國房 太郎



監査役
大槻 正広



CFO 財務・人事部門
シニアバイスプレジデント
櫻場 哲也



デジタルソリューション・
IT部門
バイスプレジデント
何 慶輝



ブランド・
コミュニケーション部門
シニアバイスプレジデント
クリーゲルシュタイナー
光太郎



法務・コンプライアンス部門
シニアバイスプレジデント
石田 なつえ



製品戦略部門
シニアバイスプレジデント
アーメッド マンスール



いすゞ・UDトラックス
エンジニアリング協業推進
部門
シニアバイスプレジデント
山本 悦夫



いすゞ・UDトラックス
国内営業協業推進部門
シニアバイスプレジデント
橋本 秀樹



いすゞ・UDトラックス
経営協業推進部門
シニアバイスプレジデント
伊藤 公一



国内営業部門
シニアバイスプレジデント
丸山 浩二



海外営業部門
シニアバイスプレジデント
ミシェル ジャック



調達部門
シニアバイスプレジデント
林 修一



開発部門
シニアバイスプレジデント
ナカノ ダグラス



物流部門
シニアバイスプレジデント
ミットル ラジェッシュ



タイ生産部門
シニアバイスプレジデント
小林 義幸

※名前の表記は、姓名順

サステナビリティ推進体制

会社全体でサステナビリティの取り組みを推進していくために、2021年12月、役員会のもとに「サステナビリティ委員会」を設置しました。同委員会は、UDトラックスのサステナビリティの重点領域(P4・5参照)にESGの観点を統合した「環境グループ」「社会グループ」「ガバナンスグループ」の3つのグループによって構成されています。

各グループでの組織横断的な議論や提案は4半期ごとに役員会に報告し、会社経営に反映しています。また、主要課題について具体的に検討・対応するために、各グループの傘下に分科会を設置しており、現状の把握や目標の設定、活動計画の策定、進捗管理などを行っています。



UDトラックス行動規範

法令を遵守し倫理的にビジネスを遂行するために、すべての従業員が実践すべき基本原則や行動を「UDトラックス行動規範」に定めています。



UDトラックス行動規範

UDトラックス行動規範の重要原則

● お互いを尊重する

相互尊重／差別をしない／安全で健康的な職場／環境コンプライアンス／
結社の自由／労働時間と報酬／現代の奴隷制と児童労働

● 公正かつ合法的にビジネスを獲得する

製品に関するコンプライアンス／公正な競争／
贈答品、接待などに関する腐敗の防止／貿易に関するコンプライアンス(輸出入)／
マネーロンダリング防止

● 事業活動と個人的な利害を切り分ける

利害の衝突／政治活動／インサイダー取引

● 企業情報と資産を保護

機密情報／知的財産／物理的資産と金融資産／個人情報保護

● 透明性、そして責任感を持ってやり取りを行う

経理と報告

コンプライアンス

コンプライアンスは、UDトラックスの企業文化と価値観を形づくる重要な要素であり、企業には誠実かつ倫理的で責任ある行動が求められているという認識のもと、すべての従業員を対象に啓発活動を行っています。2020年度には、公正かつ合法的にビジネスを獲得することを目的に、国内営業部門においてコンプライアンス推進プロジェクトをスタートしました。従業員一人ひとりが高い倫理観をもって自ら正しい行動を選択できるよう、さまざまな改善活動を推進しています。

また、2021年4月のいすゞグループへの移行に伴い、いすゞ自動車株式会社のコンプライアンス体制を参考に当社のポリシーやガイドラインを改訂し、競争法、贈収賄、輸出入管理、個人情報保護など重要なコンプライアンスリスクへの対応を強化しています。あわせて、コンプライアンス違反のおそれがある状況に適時・適切に対応できるよう内部通報制度を設けるとともに、Webによる通報を可能にするなど、利用しやすい仕組みの整備にも注力しています。

リスクマネジメント

セキュリティ管理部門が中心となって、リスクマネジメントの強化に取り組んでいます。同部門の主な責務は、従業員およびビジターを対象とした職場の安全の確保や、事業に関する秘匿情報や資産の保護、緊急事態への対応、クライシスマネジメント、災害復旧の支援など多岐にわたります。

起こりうるリスクを想定し、未然に防ぐことによって、より安心・安全な事業環境の実現に取り組んでいます。

情報セキュリティ

UDトラックスの「セキュリティポリシー」に基づき情報セキュリティの確保に努めています。また、このポリシーを反映した情報セキュリティ・ガバナンスの構築を進めています。

具体的には、災害によるシステム停止を防止するために、本社と耐震性の高いデータセンターの2拠点で電子情報を運用・管理するとともに、外部攻撃などによる電子情報の漏洩防止対策を強化しています。また、全国のディーラーを対象に情報セキュリティの強化に向けた教育を定期的実施しています。

これらとともに、「プライバシーポリシー」に従い、個人情報の適正な管理・保護を徹底しています。

サプライヤーとのパートナーシップ

パートナーシップの強化

社会の大きな変化や加速化する技術革新のなかにおいても、お客さまのビジネスニーズに応える先進的で優れた品質の製品とサービスを提供することが重要です。そして、バリューチェーン全体を通じて社会の持続可能性の実現に貢献することは、UDトラックスの事業の継続にも不可欠です。

こうした認識のもと、UDトラックスは、持続可能性を品質や性能、納期、コストなど同様に調達プロセスにおける主要な基準の一つと位置づけています。また、サプライヤー各社と、当社の考え方や行動指針などを共有し、より良いパートナー関係の構築をめざしています。そのために、従来からサプライヤー各社にお願いしてきた取り組みを整理し、「UDトラックスサプライヤー行動規範」として開示するとともに、同規範を軸に持続可能な調達プログラムを推進しています。

車両生産に関わる原材料から日常的な消耗品に至るまで、すべての調達活動は「UDトラックス調達ポリシー」に則って行っています。調達地域の最適化を図ることで、市場ニーズに迅速に対応するとともに、CO₂排出量の削減にも取り組んでいます。

持続可能な調達プログラム

● サプライヤー行動規範

持続可能な調達活動のために、全サプライヤーに遵守をお願いしている行動指針。国連グローバル・コンパクトなど世界的に認められた基準に基づき策定しています。

● サプライヤーサステナビリティ評価プログラム

各社からの「サステナビリティ自己評価調査」への回答によって、企業倫理や環境パフォーマンスなどを評価しています。

● サプライチェーンマッピング

特定分野や地域におけるサプライヤーについて調査・分析しています。

● 人と地球に関わる取り組み

循環型経済、リサイクル、エコデザイン、人権などについて、社内研修・啓発やベストプラクティスの共有などを実施しています。

紛争鉱物に対する取り組み

UDTトラックスは、錫、タンタル、タングステン、金、コバルトといった紛争鉱物を責任ある持続可能な方法で調達するよう努めています。サプライヤーには、サプライヤー行動規範の「第3条 責任ある原材料の調達」に基づき法令の遵守を求めています。また、高リスク地域から紛争鉱物を調達する際は責任ある方法をとるよう要請しています。

UDトラックスについて

1935年の創立以来、UDトラックスは日本の商用車メーカーとして、物流の現場に携わってきました。
現在は世界60以上の国と地域において、お客さまのニーズに応えるより良いトラックとサービスの提供に取り組んでいます。

会社概要 (2021年11月30日現在、従業員数を除く)

会社名	UDトラックス株式会社
創立	1935年12月1日
所在地	埼玉県上尾市大字壺丁目1番地
資本金	775億円
従業員数	6,127名(契約社員等および派遣社員を含む、2020年12月末日現在)
主な事業	<p>国内事業</p> <p>大型トラックの開発・生産・輸出・販売／中・小型トラックの販売／ 自動車用部品の製造・販売／トラック・バスの整備・補修部品などの販売／ ボルボブランド製品の輸入・販売</p> <p>海外事業</p> <p>新興国向けの大・中・小型トラックの開発・生産・販売／ 自動車用部品の製造・販売／トラック・バスの整備・補修部品などの販売</p>
国内グループ会社	UDフィナンシャルサービス株式会社、株式会社ニューメック
海外主要拠点	シンガポールオフィス、タイ工場、UDトラックス・インディア

取り扱い製品



UDトラックス

大型トラック「クオン」、中型トラック「コンドル」、
小型トラック「カゼット」および新興国向け大型トラック「クエスター」、中型トラック「クローナー」、
小型トラック「クーザー」を展開。

V O L V O

ボルボトラック

ボルボブランドの大型トラックの輸入・販売。日本市場における取り扱い製品は、オンロードのボルボFH4x2、6x4トラクター、6x2、6x4リジッド、オフロード(構内専用)のFMX6x4、8x4リジッド。

V O L V O P E N T A

ボルボペンタ事業部

ボルボペンタブランドの産業、船用エンジンの輸入と各OEMへの搭載技術支援。日本市場での主力製品はフォークリフトなどに使用される産業用エンジン、レジャーボート用高級船用エンジン。

沿革

年代	会社の歩み	製品の歩み
1930	1935 埼玉県川口市に日本ディーゼル工業(株)を創立	1938 当社初のディーゼルエンジン開発 1939 ディーゼルトラック1号車完成
1940	1942 鐘淵ディーゼル工業(株)に社名変更 1946 民生産業(株)に社名変更	
1950	1950 民生ディーゼル工業(株)に社名変更	1955 独自技術による「UDエンジン」誕生 1958 日本初積載量10トン超「6TW型」誕生
1960	1960 日産ディーゼル工業(株)に社名変更 1962 上尾工場の操業開始	
1970		1975 中型トラック「コンドル」誕生
1990		1990 大型トラック「ビッグサム」誕生
2000	2007 ボルボグループに加わる	2004 フラッグシップ大型トラック「クオン」誕生
2010	2010 UDトラックス(株)に社名変更 2014 販売会社UDトラックスジャパン(株)を合併	2013 新興国向け大型トラック「クエスター」誕生 2014 小型トラック「カゼット」誕生 2017 新型「クオン」「コンドル」発売、新興国向け中型トラック「クローナー」、小型トラック「クーザー」誕生
2020	2021 いすゞ自動車株式会社へ事業譲渡	

UDトラックスのさまざまな情報は、こちらからもご覧いただけます。

- ・ Webサイト <https://www.udtrucks.com/japan>
- ・ Facebook <https://www.facebook.com/UDTrucksJP>
- ・ YouTube <https://www.youtube.com/user/udtrucksvideos>



UDトラックス株式会社

〒362-8523 埼玉県上尾市大字町丁目1番地
<https://www.udtrucks.com/japan>

